

香春町

地域づくりビジョン

地域らしさと多様な力で拓く未来のかたち

第1部 地域運営組織形成の推進

令和7年12月

香春町

目次

1. はじめに. . . 1

2. 集落活動の現状とそれに伴う影響. . . 2

コミュニティ機能低下による影響

3. 新たな地域コミュニティの必要性. . . 4

地域運営組織とは

香春町の地域運営組織の位置づけ

4. 本町における地域運営組織形成の経緯と特徴. . . 6

地域運営組織設立の契機

地域運営組織形成の経緯

対話を重視したまちづくり

それぞれの地域らしさを活かした地域運営組織

5. 今後の展開. . . 9

6. おわりに. . . 10

1. はじめに

香春町は、悠久の歴史と、香春三山に抱かれた豊かな自然環境、そして地域に根差した人々の絆によって育まれてきたまちです。鉱山のまちとして栄えた産業の歴史と、それを支えた人々の営みは、今も町のあちこちに息づいています。

しかし今、町は大きな転換点を迎えています。全国的な傾向と同様に本町においても少子高齢化や人口減少が進行し、地域経済や生活基盤の維持、地域コミュニティ再生といった課題に直面し、これまでの当たり前が通用しなくなる時代が訪れようとしています。こうした中であっても、私たち香春町民が大切にしてきたものを守り、未来に引き継いでいくためには、住民一人一人が課題に向き合い、取組みを進める必要があります。

こうしたことから、本町においては、学校再編事業による旧小中学校の廃校活用事業を契機とし、旧4小学校区における地域運営組織の形成の推進を進めてきました。

町の重点施策として進めてきた地域運営組織の形成は、採銅所地域を皮切りに旧小学校くに広がりを見せつつありますが、今一度、それぞれの地域の特性を踏まえ、町のあるべき姿を町民全体で共有し、共に目指していくために「香春町地域づくりビジョン」を策定しました。

本町が今まで取組んできたことが、未来へのまちづくりであると再確認し、この豊かな香春町を次世代へ引き継いでいくために、これらも町一丸となり取組みを推進していけるビジョンとなることを願っています。

2. 集落活動の現状とそれに伴う影響

本町の人口は、1980年ごろの18,000人をピークに人口減少の一途をたどっており、今後ますます加速すると予想されます。

その様な中、地域活動においても長きにわたり従来のコミュニティの基盤を支えてきた行政区などの活動も人口減少や担い手不足が深刻化しています。更に、核家族化、価値観の多様化が進む現代において、従来の仕組みのままでは、地域活動の持続的な運営が難しくなっていることで、コミュニティ機能が低下しています。

地域のコミュニティ機能が低下することによって、地域へ様々な影響が出る事が予想され、その影響は次第に町全体にも大きな影響として広がります。

コミュニティ機能低下による影響

コミュニティ機能が低下することによる影響は、主に以下の点があげられます。認識されているもの以外にも、潜在的な個々への影響は数多く存在することが予想されるため、町や地域での現状の調査が必要です。

① 住民同士のつながりの希薄化による孤立

- 近所づきあいが減り、顔見知りでも声を掛け合わなくなる
- 孤立・孤独を感じる人が増え、精神的に不安定になる

② 防犯・防災力の低下

- 「見守りの目」が減り、犯罪やトラブルに気づきにくくなる
- 災害時に助け合いができず、情報共有が遅れる

③ 地域課題の発見・解決力の低下

- 困っている人や問題が表面化しにくく、問題が広がる
- 行政や一部の人に負担が集中しやすくなる

④ 地域への愛着・誇りの低下

- 地域が「住んでいるだけの場所」になり伝統や文化が継承されない
- 若者の流出、定住意欲の低下につながる

⑤ 経済・生活面への影響

- 地元商店やサービスの利用が減少する
- 高齢者の生活支援や子育て支援が弱体化する

3. 新たな地域コミュニティの必要性

従来の地縁型コミュニティを大切にしつつも、地域課題の複雑化や多様化などに対応するためのほか、人口減少や担い手不足による機能低下を補うために、現状のエリアを見直し、住民・団体・事業者等が積極的参画し地域を主体的に運営する新たなコミュニティの形成が不可欠です。

本町では、国が進めている地域運営組織の形成を推進しつつも、香春町の地域や住民に応じたコミュニティの在り方の見直しを住民と共に進めています。

地域運営組織とは

地域運営組織（RMO）は、地域住民が主体となり、自治会や各種団体、事業者、行政など多様な関係主体が参画しながら、地域の暮らしや生活機能の維持・向上を目的として活動する組織です。

地域内の課題や将来像を共有し、合意形成を図りつつ役割分担のもとで取組を進めることで、個別・断片的になりがちな地域活動をつなぎ、地域全体を面的に支える持続可能な運営体制の構築を目指します。

地域運営組織の形成エリアについては、総務省が示す考え方を踏まえ、本町においても旧小学校区を一つの目安として設定しています。

小学校区は、住民の日常生活圏と重なりやすく、子どもから高齢者まで世代を超えたつながり形成されてきた地域であることから、地域課題の共有や合意形成が図りやすい特性を有しています。

また、行政区単位では担い手や対象規模の確保が難しくなっている活動の増えていることから、より広い範囲で人材や資源を共有し、地域機能を補完する必要があります。

このため、本町においても、校区全体でのコミュニティ機能の向上を図り、持続可能な地域運営体制の構築を進めていきます。

香春町における地域運営組織の位置づけ

本町は、下記計画中の重点施策として、地域コミュニティの活性化、住民主体のまちづくりを進めるために地域運営組織の形成を支援を行っています。

【第5次香春町総合計画】

基本目標3 社会をつくる

3-1 住民自治

重点施策：地域コミュニティの活性化

●町民による主体的なコミュニティ活動を促進するため、地域運営組織の設立に向けた取り組みを進めます。

計画推進期間：令和4年～令和13年

【第2期「香春町まち・ひと・しごと創生総合戦略」】

基本目標4 自らの課題を解決し、安心して暮らせる地域をつくる

施策番号4-1 住民主体のまちづくりの推進

概ね小学校区単位での話し合いの場を継続的に設けながら、地域運営組織の形成支援をしていきます。

計画推進期間：令和2年～令和8年（計画の延長のため2年延長）

4. 本町における地域運営組織推進の経緯と特徴

平成27年に学校再編審議会の審議が始まり、香春町の町立4つの小学校と2つの中学校を1校の義務教育学校に再編する事業が進みました。その事業を受けて、廃校となる学校の新たな利活用計画策定における、住民参加の対話型ワークショップを小学校校区ごとに展開し、地域での課題の洗い出しや共有を住民同士で行いました。地域ワークショップでの意見は、ハード面を学校跡地利活用計画として策定し、ソフト面を住民主体のまちづくりとして地域運営組織の形成へと進めるきっかけとなりました。

地域運営組織形成のこれまでの経緯

令和元年、令和2年	「廃校と地域の未来を考えるつどい」開催 全小学校区で開催
令和2年11月	香春町学校跡地利活用計画 策定
令和3年3月	採銅所地域運営組織設立準備会立ち上げ
令和4年1月	採銅所地域コミュニティ協議会設立
令和4年7月	香春町地域自治フォーラムの開催
令和4年9月	「ご近所さん会議」開催 香春、勾金、中津原の3地域で開催 勾金と中津原ではおおむね住民の推進要望が出る
令和5年2月	「これからの地域コミュニティを考える研修会」開催 町内全区長及び公民館等3役対象に説明
令和5年5月	新区長事業説明のため区長個別訪問
令和5年6月・8月	地域運営組織設立に向けた検討会を開く 区長を対象とした検討会を香春、勾金、中津原の3地域で開催
令和5年12月	勾金地域運営組織設立準備会立ち上げ
令和6年9月	中津原地域運営組織設立に向けた意見交換会

令和6年9月	中津原地域区長個別訪問 運営組織設立準備会立ち上げに関する説明
令和6年10月	中津原地域運営組織設立準備会立ち上げ
令和7年2月	勾金地域コミュニティ協議会設立
令和7年10月	中津原地域コミュニティ協議会設立 採銅所地域コミュニティ協議会 過疎地域持続的発展優良事例表彰総務大臣賞受賞

対話を重視したまちづくり

香春町は、学校跡地利活用計画を策定するために開催した住民参加による対話型ワークショップ以降、地域運営組織の形成には、年齢や性別を問わず、誰もが参加できる対話を重視した地域づくりを展開してきました。対話を重視した話し合いを用いることで、住民一人ひとりが自らの思いや課題を言語化し、互いに共有しながら地域の将来について考える場となりました。一方的な意見集約や形式的な参加にとどまらず、住民同士、また住民と行政が対話を通じて理解を深めることで、地域課題を「自分ごと」として捉える意識を育み、主体性の醸成につながっています。

こうした対話のプロセスを通じて、地域の実情や潜在的なニーズ、行政区単位では把握しにくい課題を可視化し、その内容を住民や行政と共有し、支援の方向性を多様な人材と模索し、新たな視点での取組が生まれるきっかけとなっています。

これからも、対話を重視したまちづくりをおこない、住民同士が顔の見える関係を築き、互いに支え合いながら地域の未来を描けるまちを目指します。

多様な人々の思いが反映され、地域らしさを活かした、誰もが誇りと愛着を持てる香春町を次世代に引き継ぎます。

多様な人材の参画と地域らしさを活かした組織形成

地域の成り立ちや歴史、文化、住民同士のつながりなどは地域ごとに異なることから、本町では画一的な組織モデルを押し付けるのではなく、それぞれの地域らしさを尊重した組織形成を推進しています。

組織形成までの内容やスピードについて地域に応じ進めることとし、形成方法の完全オーダーメイド化としており、地域実情に即した柔軟な計画の策定や組織体制づくりにより、住民が主体となって地域運営に関わることのできる仕組みの構築を目指しています。

ポイント①【地域人材の個性と地域資源を活かす】

地域に関わる人材一人ひとりが持つ経験や得意分野、価値観といった多様な個性を尊重し、それぞれの強みをいかした役割づくりを行うことで、主体的参画できる組織形成を進めています。

地域に存在する自然環境、施設、歴史・文化、人のつながりなどの地域資源についての見直しや掘り起こしを行い、地域魅力を最大限に活用し、個性豊かな地域づくりを進めています。

ポイント②【年齢・性別問わず多様な参画を促す】

年齢や性別・立場にとらわれることなく、誰もが関わりやすい環境づくりを行い、多様な視点や意見を地域づくりに取り入れることで、開かれた持続可能な地域運営を目指しています。

ポイント③【地域のペースで進める】

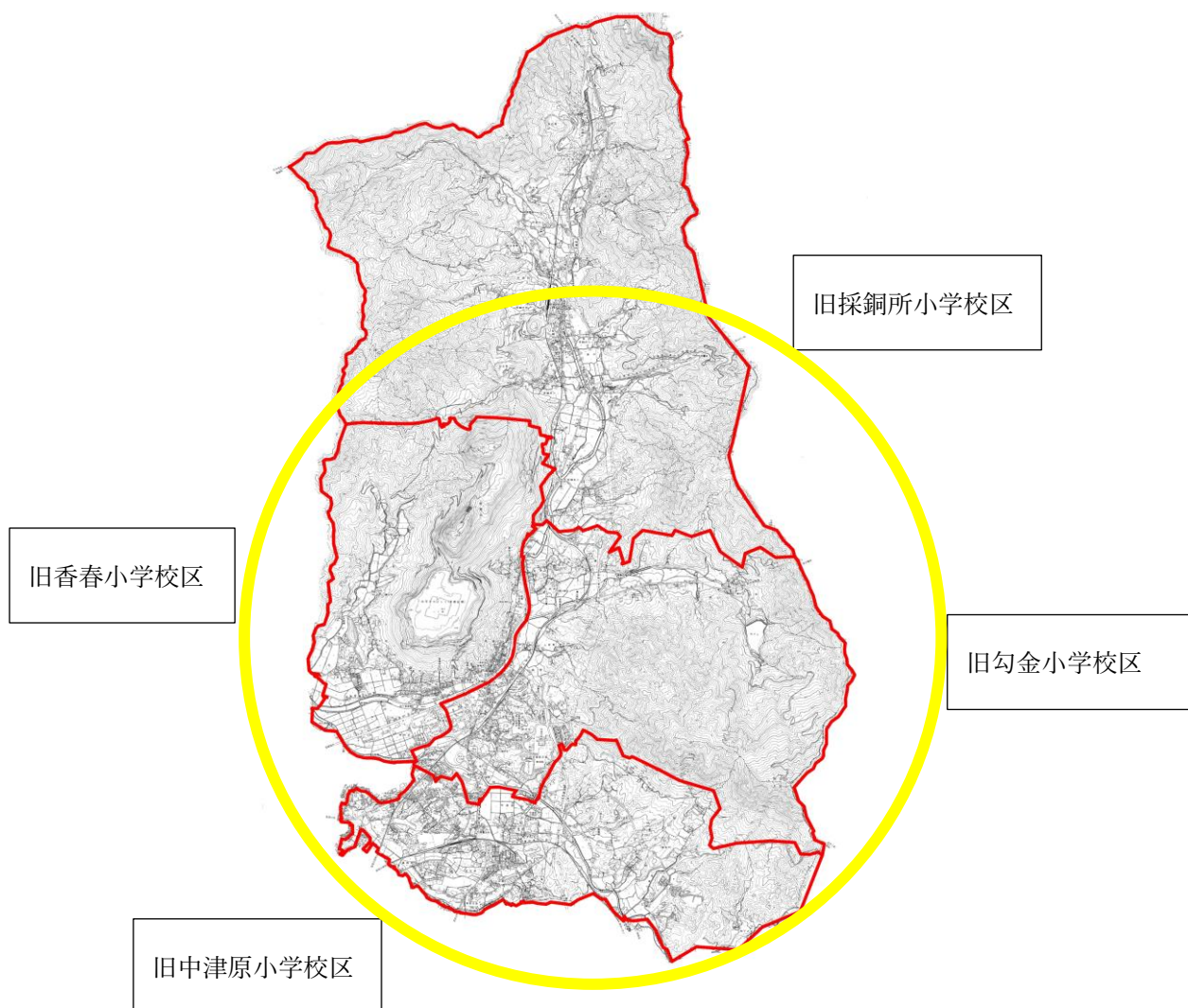
地域ごとに違う個性や資源を活かした地域づくりは、話し合いの内容や頻度、進捗の速度も違います。無理に行政のスケジュールに合わせるのではなく、地域の機運や主体性を捉えながら進めています。

※令和5年に作成した、地域コミュニティづくりガイドラインには、コミュニティ協議会の説明や設立までのプロセスを記載しています。

5. 今後の展開

香春町の地域運営組織は、令和4年に設立をした採銅所地域を皮切りに他地域に展開を広げています。まだ形成に至っていない地域があるものの、行政としては、今後も地域の主体性を大切に地域の実情やペースに合わせて形成や運営支援を行っていきます。

今後の展開としては、協議会間で情報共有や連絡会などの体制を整備し、地域間連携を深めることで、共助機能の向上などを目指します。地域の個性やまた、地域の団体と連携しながら町全体に広げていくことで、香春町で安心して暮らし続ける場所となる事を目指します。



6. おわりに

本ビジョンは、あらかじめ完成された将来像を示すものではなく、地域に関わる一人ひとりが対話を重ねながら、共に考え、共に育てていくための指針です。

人口減少や社会環境の変化が進む中において、従来の枠組みや一部の担い手だけに依存した地域運営には限界があり、多様な主体が関わる持続可能な地域づくりが求められています。

本町では、対話を通じて地域の課題や可能性を共有し、世代や立場を超えた参画を促しながら、地域らしさを活かした取組を積み重ねていきます。

一人ひとりの思いや気づき、小さな行動の積み重ねが地域の力となり、将来に向けた確かな歩みにつながっていきます。

今まで積み上げてきた確かな歩みを大切に、今後も、地域に関わる全ての人々が支え合い、学びあいながら本ビジョンを実践につなげ、誰もが安心して暮らし続ける、誇りと愛着の持てる地域の実現を目指していきます。